榆木小学校　学校通信
No.３８
なりたい自分になる！
PLUS ULTLA
令和７年１月２４日
文責　余宮

冬も峠に差し掛かったようです。体調管理が難しい時期でもありますね。お世話になります。

## スクールプライド

卒業まであと 48 日※（始業式当日）。そんな言葉が６年教室から漏れ聞こえてきました。いよいよ卒業式が意識されるように！始業式後、６年生は学年集会を開き、卒業に向けた活動を本格化しようと、担任の先生方と一緒に志をさらに一段高くした姿が見られました。

そんな中、けいたさん（仮名）から私に「小学校の校歌って覚えています？」とお尋ねが。かれこれ 40 年以上も前の小学校の校歌なのに、それがやはり覚えているもんなんですね。私は天草の小さな学校出身です。今では、少子化の影響で廃校になっています。当然、リアルタイムでは歌われていない校歌にもかかわらず、すらすらと歌えるではないですか。最初はさびの部分。さらにはさびに引き続き、2 番の歌詞とメロディーが。どんどん出てくる出てくる。そして、校歌に引き続き、当時鼓笛隊（懐かしい響きです）で奏でた音楽が、つらつらと楽譜付きで出てきました。

三つ子の魂百までとは、よく言ったものです。

そして、その歌詞には歌詞以上の意味がありました。

いたずらをしたあの時や、先生から叱られた（なぜか万国共通、先生の思い出って、褒められたではなく、叱られたことですよね）あの出来事、友達と切磋琢磨した放課後の時間など、思いもよらず、いろんなことが思い出されました。

スクールプライド、という言葉が頭の中に浮かびました。

スクールプライドとは、我が母校に対する愛着や誇りなどのポジティブな感情のことで、何らかの特色のある学校（例えば甲子園常連校など）に在学、もしくは卒業生がもつと思われがちです。じゃあ、何らかの特色がなければもてないのか、というとそうでもない。むしろ、特色は当校に集うみんなで創るもので、無意識のうちに培われている場合がほとんど。

先日、熊本市教育センターモデル校の委嘱を受けて、熊本市の 200 人余りの先生方が本校へ視察に来られました。子どもたちの自由闊達な学びの姿や、それまでの取り組みなどを参観、経験された先生方が口々におっしゃられたのが、「榆木らしい学び」が随所に見られたとのこと。タブレット端末を助けに、友達と教師も一緒に語り合う中で、なりたい自分になるための追究に没頭しながら、豊かに表現していく姿は、確かに「榆木らしい学び」です。そして、その空間に集うみなが、その学びを身体的に受け止め実践し、そしてつなげていく。このような見えないつながりの中で、スクールプライドは培われていったのでしょう。

期せずして、けいたさんが卒業を目の前に榆木小の校歌に想いを馳せた時、自然とその空間にいる心地よさや誇り、愛着がほとばしったのだろうと思います。けいたさんには、本当のスクールプライドが育っているんだと、そして、卒業後もけいたさんがこれから繰り広げる数々の挑戦の後ろ盾になってくれるものだと、確信させられる一幕でした。

卒業という新しい人生の局面は、期待や希望などがほとんど。いや、でも、ちょっとだけ、う～ん結構な割合で、不安や心配もあるかな。そんなネガティブな心にも向き合えるスクールプライドを携え、仲間の力も少し借りて、未来の扉を開くときが、もう目の前です。

※ちなみに、本日（１月２４日）終了時点での６年生残りの登校日は、あと３７日ですね～